

# タマネギの植え付けと作業のポイント



9月に種まきしたタマネギは、苗が大きく育った10月下旬から11月が植えどきです。

タマネギは真冬に入るまでに十分地中に根を張り、春になったらすぐに勢い良く育つようにすることが大切です。そのためには元肥を適切に施し、特にリン酸成分を欠かさずに（火山灰土壌では多めに）与えておくことが大切です。根の性質が特異的で、通気性の良さを好まず、乾燥を嫌うので、元肥に堆肥は与えず、植え付けた後に株元を鎮圧しておくことが大切です。

また、油かす、魚かすなどを与えるとタネバエが発生することがあるので、これらは与えないようにします。植え付け方法には植え溝を掘り、化成肥料、溶成リン肥（または過石）などを施して土を掛け、並べて苗を植える列植えと、肥料をベッド全面に耕し込んで穴開き黒色ポリフィルムを敷き、その穴に苗を挿し植

するマルチベッド植えがあります。

列植えは植え付け作業が早く、苗の姿勢がそろいやすく、踏み付け鎮圧がしやすく、また生育後期に列間に後作（例えばインゲンマメ、ラッカセイ、シヨウガなど）を植え付けることにより、輪作を効率的に行うことができる利点があります。

マルチベッド植えは、地温を高め、乾燥を防いで生育を促し、肥料の流出を減らし雑草を抑制する効果があります。ただし植え付け、

鎮圧には手間がかかります。両方の得失をよく考えて選択してください。

植え付け作業のポイント  
は、苗床から苗を抜き取る  
とき、乾いていたら灌水（かんすい）し、苗の大きさをよくそろえるよう、根を十分付けて抜き取り、植える  
ときには、根をできるだけ  
下方に向けて深く入るよう  
植えることです。ベッド植  
えでは木製の穴開き道具で  
植え穴を開けておくとな  
良く作業が進められます。

植えた後は、前述の根の特性上、株元を十分鎮圧（列

植えでは足で踏み固め、ベッド植えでは指先で株元を締め付ける）しておくことで、植え付けの深さは図のように根の上に土が2センチほど掛かるようにします。緑の部分に土が掛かるのは深過ぎて、後の育ちが良くありません。

植え付け後に畑が乾き過ぎるようなら、2〜3回ほど株元に灌水すると活着が早まります。

板木技術士事務所

●板木利隆

